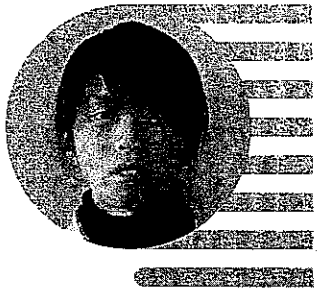
モモ・スモモ

佐賀県果樹試験場　上場営農センター
前山美和



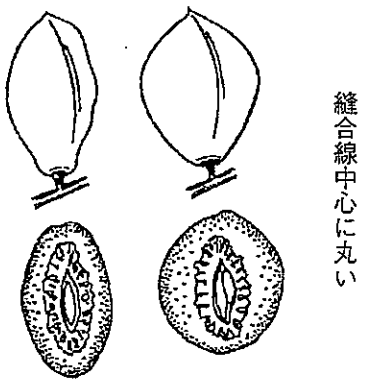
適正摘果と新梢管理は品質の安定・向上のための大切な作業です。

モモ・スモモ共通

これまでの生育状況は全体的に平年並みで、昨年より一週間程度早く推移しています。

開花から収穫までの管理は満開後の日数が目安となりますので、各園地の満開日を確認してください。

今後は、摘果、袋かけ、マルチ被覆などの作業が集中するので、管理が遅れないように頑張ってください。



第１図　正常果（左）と双胚果（右）

モモ

摘果

摘果については三月号にも書いていますが、強摘果による核割れなどを防ぐため、予備摘果、本摘果、仕上げ摘果の三段階に分けて行います。

①予備摘果（満開後二～三週間）

②本摘果（満開後四〇日頃）
日川白鳳などの早生種は満開後五〇日頃までに終わらせましょう。

③仕上げ摘果（満開後七〇日頃）
仕上げ摘果と同時に袋かけを行います。

摘果の程度は樹勢によって調整が必要となりますので第一表を参考にしてください。

適正着果量は、長果枝（三〇㎝以上）で中央部に二～三個、中果枝（十五～三〇㎝）で中央部に一～二個、短果枝（十五㎝以下）で先端に一個を目安とし、最終着果量は成木（一〇年生以上）で一〇ａ当たり一

第１表　モモの樹勢と摘果程度の目安

樹勢	摘蕾	予備摘果	本摘果	修正摘果	着果指数
強勢	やや弱め 60～70％を摘蕾	最終着果量の ２倍程度	最終着果量の 20％程度	２～３回にわたり発育不良果、変形果、病害虫被害果を除去	110 ～120
適勢	普通 70～80％を摘蕾	最終着果量の 50％増	最終着果量の ５ ～10％程度		100
弱勢	やや強め 80％を摘蕾	最終着果量の 20％増	最終着果量の ５％増程度		80～90

注）着果指数：適正な樹勢を100とした場合の指数

第２表　モモ防除暦

散布時期	対象病害虫	薬剤処法	備考
5月上旬(袋かけ前)	黒星病	デランフロアブル 1,000倍	せん孔細菌病の発生園では、ストレプトマイシン液剤1,000倍を散布する。
	黒星病 灰星病	アンビルフロアブル 1,000倍	
	アブラムシ類 ナシヒメシンクイ	ダイアジノン水和剤34 1,000倍	
5月中旬	黒星病	デランフロアブル 1,000倍	せん孔細菌病の発生園では、ストレプトマイシン液剤1,000倍を散布する。
	クワシロカイガラ モモハモグリガ	スプラサイド水和剤 1,500倍	
5月下旬	黒星病	水和硫黄剤 500倍	

第３表　スモモの防除

散布時期	対象病害虫	薬剤処法
5月中旬	灰星病	アンビルフロアブル 1,000倍
	シンクイムシ類 アブラムシ類	モスピラン水溶剤 4,000倍

第４表　スモモの着果の目安

	中長果枝	短果枝
大石早生	8～10cmに1果	3～4芽に1果
サンタローザ	10～12	5～6
ソルダム	10～12	5～6
大石中生	10～12	5～6

万個程度となるようにします。

袋かけ

仕上げ摘果と同時に袋かけを行いますが、袋をかける前に病害虫の防除をしっかりやっておきましょう。

また、閉め口が緩いと、害虫の侵入や病気の感染の原因となりますのでしっかり閉めてください。

袋の数がその樹の着果量となり来年の着果数の目安にもなりますので、必ず記録しておいてください。

新梢管理

果実肥大と平行して新梢が盛んに伸びてくると、葉数も増え、果実肥大や品質に大きなプラスとなります。

しかし、放置しておくと日照不足になったり、樹勢のバランスが乱れたり、薬剤がかかりにくくなり病害虫の発生が多くなったりするので、芽かきやねん枝、摘芯、せん定、誘引などの新梢管理が必要となります。

モモ・スモモは冬季のせん定より夏場の新梢管理が重要です。芽かき、摘芯の詳しい方法については三月号を参考にしてください。

病害虫防除

県の防除基準に従って適期防除に努めてください（第二表）。

また、作業日誌は必ず記帳してください。

スモモ

摘果

モモ同様に、小玉では収益性が上がらないので、早期摘果により大玉生産に取り組んでください。

大石早生、ソルダムでは開花後六〇日頃より本摘果に入ります。

本摘果では、最終着果量の一割～二割増しにし、実止まり確定後に仕上げ摘果で調整します。品種別の摘果の目安は第四表を参考にしてください。